

編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 交流担当 (はしかけ担当職員: 中川)

住所: 〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091 電話: 077-568-4811 ファックス: 077-568-4850

電子メール: hashi-adm@biwahaku.jp 琵琶湖博物館ホームページ: <https://www.biwahaku.jp>

～ 目次 ～

1. 事務局からのお知らせ

2. はしかけグループの活動報告と活動予定

- (1) うおの会 (2) 近江 巡礼の歴史勉強会 (3) 淡海スケッチの会
 (4) 近江はたおり探検隊 (5) 大津の岩石調査隊 (6) 温故写新
 (7) 暮らしをつづる会 (8) 古琵琶湖発掘調査隊 (9) ザ! ディスカバはしかけ
 (10) 里山の会 (11) 植物観察の会 (12) たんさいぼうの会 (13) 田んぼの生きもの調査グループ
 (14) タンポポ調査はしかけ (15) ちっちゃなこどもの自然あそび(ちこあそ) (16) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会
 (17) びわたん (18) ほねほねくらぶ (19) 緑のくすり箱 (20) 虫架け (21) 森人 (22) 琵琶湖梁山泊
 (23) サロン de 湖流 (24) 水と暮らし研究会 (25) 海浜植物守りたい

3. はしかけさんが活躍する琵琶湖博物館イベント情報

4. 生活実験工房からのお知らせ

5. その他の事項

会員数 … 404人

グループ数 25グループ

(2022年11月30日現在)

1. 事務局からのお知らせ

街にはクリスマスの飾りつけが溢れる季節となつてまいりましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

年の瀬も迫り、お忙しい日々をお過ごしでしょうか。今年も色々な出来事があつた一年でしたが、来る年も引き続き、どうぞよろしくお願ひいたします。さて、事務局より下記のとおりお知らせがあります。

■びわ博フェスについて

本年度はびわ博フェス(10月22日～23日)を無事開催することができました。

はしかけ会員の皆さまには、シンポジウム、ワークショップ、ポスター展示と大変ご活躍いただき、お陰様で盛況のうちに終えることができました。皆さまには、改めてお礼申し上げます。

また、びわ博フェス終了後には、ワークショップに参加されたご家族からお礼のメッセージや質問が届いたり、「みんなで学びあう博物館」に近づけたイベントになつたのではないかと考えています。さらに、スタッフとして奮闘して下さった会員の方からも「準備は大変だったけれど、やってよかった」というお声も多数いただきました。

次年度も改善できるところは改善して、引き続き楽しいフェスが開催できるよう努力していきたいと考えています。

■新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う「はしかけ」の活動基準について

はしかけ活動については屋内、屋外とも活動が可能な状態ではありますが、以下3点については引き続きご留意ください。

- ・屋内活動については部屋の定員を超えないよう活動して下さい。
- ・飲食は屋内屋外ともに、黙食、非対面での食事に努めてください。
- ・自動車で乗り合いされる場合には、喚起に十分注意して下さい。

■JICAの研修で海外の方にはしかけ制度の紹介を行いました

11月29日に琵琶湖博物館にてJICAの研修が行われました。博物館が地域と関わりを持ちながら活動を展開している事例の視察として、琵琶湖博物館に来館されました。研修では琵琶湖博物館の理念や展示を知ってもらい、皆さまと共に作り上げてきた「はしかけ」や「フィールドレポーター」の制度を紹介しました。研修に先立ち、活動を紹介頂けるグループを募集させていただきましたが、今回は古琵琶湖発掘調査隊さんと水と暮らし研究会さんにご発表いただきました。

(中川 信次)

2. はしかけグループの活動報告と活動予定



(1) うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 29名】

グループ担当職員: 田畑 諒一、川瀬 成吾

【活動報告】

■10月16日(日) 第170回定例調査

場所: 東近江市栗見出在家町付近の堤脚水路、琵琶湖岸 参加者: 17名

朝から快晴の青空が広がっていました。琵琶湖の波もおだやかで、絶好の調査日和でした。さわやかな秋の空に誘われてか、全員が早めに集合し、10時には調査を開始することができました。調査場所の水路は水深も浅く、泥の中での調査となりましたが、フナ類稚魚をはじめとする魚を確認することができました。

その後、全員で琵琶湖岸に移動して後半の調査を行いました。ひなたでは暑いくらいの好天でしたが、澄んだ琵琶湖の水はひんやりと心地よく、何とも言えない気持ちよさで、皆さんなかなか水から上がってきません。こちらではタモ網と投網での調査でオオクチバスを含む6種を確認することができました。この日の琵琶湖は対岸に蜃気楼がうつすら見え、水に入っている皆さんが子どもに見えるほど、気持ちよく楽しい調査となりました。

(報告: 手良村知央)



10月16日の湖岸での調査の様子。
とても気持ちの良い一日でした。

■10月23日(日) びわ博フェス

場所: 琵琶湖博物館 実習室2 うおの会スタッフ: 12名 ワークショップ参加者: 36名+保護者

3年ぶりに開催された「びわ博フェス」。うおの会は「お魚キーホルダーを作ろう」と題し、魚の絵を描くプラバン工作のワークショップを実施しました。このプログラムは中断前も毎年実施していたもので、参加者に琵琶湖の魚の名前を一種でも覚えて帰ってほしいとの思いで開催しています。久々なので準備に手間取るかと思いきや、始めてみると思い出すもの。午前中に実習室2を使用していたグループの撤収後、私たちの開始まで1時間しかない中で、無事に準備を完了できました。

今回は1回あたり12人、1回30分とし、3回実施しました。以前は1回36名を4回実施したこともあり、それに比べれば運営には比較的余裕がありました。ナマズ、ギギ、カネヒラ、ハリヨなどなど、琵琶湖の魚をモチーフとしたカラフルなプラバンキーホルダーが次々と出来上がり、参加者の皆さんの嬉しそうな顔を見ると、やって良かったな～と思いました。反省点としては、開始時刻に来られない参加者がおり時間が押し気味になったこと、最終工程のストラップ・ひも選びで迷う子どもが多く、同じく時間が押したことです。次回は開始時間厳守を伝え、事前にストラップ等を選んでもらうなどの対策を講じたいと思います。スタッフとして参加された皆さん、ポスター作成と展示にご協力頂いた皆さん、お疲れ様でした、そしてありがとうございました。

(報告: 中尾博行)

【活動予定】

11月は野洲川、12月は湖岸水路での調査を計画していますが、新型コロナウイルス感染症の状況等により、内容を変更する可能性があります。詳細は開催案内メールにてお知らせします。



(2) 近江 巡礼の歴史勉強会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 12名】

グループ担当職員: 橋本 道範

【活動報告】

■9月27日(火) 水口町郷土史会の「歴史講座」で発表

場所: 甲賀市水口町 参加者: 1名 (全体の参加者 30名)

創立60周年を超えた水口町郷土史会の岩上支部メンバー4名が地元の「岩上地区の歴史と祭礼」をテーマに順次発表した。

岩上地区 5 集落の歴史と 3 つの祭礼(和野津島神社のハナバイ、巖峨八坂神社の川枯祭り、新城観音堂の観音祭)を詳しく紹介した。特に、江戸時代の旧東海道に関する歴史では、新城八幡神社の境内に建てられた観音堂で祀られている馬頭観音や十一面観音と飯道寺の関係についても言及した。講座の後の見学会では、ここが甲賀准四国八十六番札所であった時に祀られた弘法大師像について紹介した。大正 3 年に今郷浄土寺に移転されたが大師像と厨子は今も残されている。



■10月5日(水) 場所:甲賀市水口町 参加者:2名

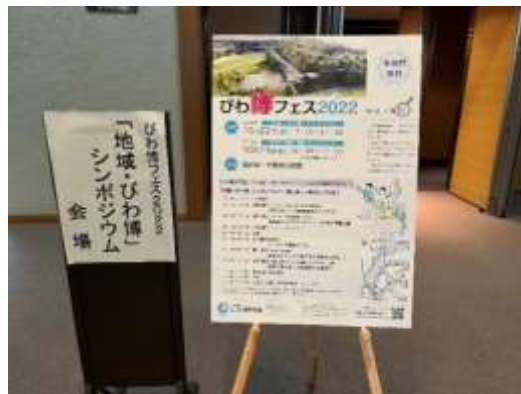
大正 15 年 3 月発行の甲賀郡志が最も古いものと思っていたが、明治 13 年 8 月発行の甲賀郡誌があることを初めて知った。58 頁の小冊子であるが郷土資料としてとても貴重なものである。



■10月22日(土) びわ博フェス 2022 のシンポジウムで発表

場所:琵琶湖博物館 参加者:3名 (全体の参加者 60名)

近江の祈り～甲賀准四国八十八カ所～と題して口頭発表を行った。最後の交流会にも参加し「つながり」と「ひろがり」を得る良い機会になった。



■10月25日(火) 場所:甲賀市水口町 参加者:2名

日本電波ニュースが制作するベトナム・ホーチミンテレビの番組「日本の服飾文化の聖地を巡る旅(仮)伊賀甲賀編」にメンバーが案内役で出演。ベトナム人の出演者を飯道山の行者道に案内し、体験をしてもらう企画。海外では空前の忍者ブームとなっているが、伝説や空想が入り交じり、残念ながら歴史上の正しい姿は伝わっていない。前回と同様に実際の甲賀忍者がどのよう

な人たちだったのかを行場体験を通して探る番組である。



■11月3日(水) 飯道寺の笈渡し 場所:甲賀市水口町 参加者:2名

明治25年に復興された水口町三大寺の飯道寺では法燈を継ぐ笈渡しをはじめとした伝統が継承されている。圓光寺から飯道寺へのお練りのあと、世界平和を願う護摩供養を行い、その後笈が渡された。笈箱には書類や鍵が入れられていたとされており、笈渡しは翌年の当番に引き継ぐ儀式である。



甲賀准四国57番札所の飯道寺には明治45年の掛額と弘法大師像が継承されている。厨子は本来のものではなく特別に制作されているが、大師像は本来の鋳造品である。

■11月12日(土) 場所:甲賀市水口町 参加者:2名

山伏の末裔による飯道山の勉強会を発足した。

甲賀で山伏の歴史を調査するメンバーが集結して勉強会を立ち上げた。甲南中部地区は磯尾、竜法師、野尻など山伏が暮らしていた地域で、多くの古文書や掛軸、仏像が残されている。山伏の里として知られる磯尾在住の方や甲賀市くすり学習館の館長と巡礼の歴史勉強会のメンバー4名で活動を開始する。山伏の加持祈祷と配札活動に始まり、製薬と配置売薬や診療所の設置につながる歴史と、その末裔が甲賀准四国を設置する背景を考える。



【活動予定】

- ・「甲賀准四国八十八カ所」に関連した調査活動として、一カ寺ごとの二次調査を行い、データ集積を行う。
- ・「近江 巡礼の歴史勉強会」としての纏め作業を開始する。

(福野憲二)



(3) 淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 2名】

グループ担当職員: 榎永 一宏

【活動報告】

- 10月16日(日) 曾根沼 参加者 2名 曾根沼にてスケッチを行いました。
- 11月20日(日) 坂本にてスケッチの予定でしたが、天候に恵まれず、中止。

【活動予定】

- 12月18日(日) オープンラボ(琵琶湖博物館)活動時間 10時30分～(15時)
2023年の活動についてミーティングを行います。
また、希望者はそののち剥製等のスケッチや敷地内での吟行をします。
持ち物/スケッチブック、鉛筆、水彩絵の具等、スケッチの道具。俳句をされる方は、それぞれ吟行に必要なものをお持ちください。
- 1月15日(日) オープンラボ(琵琶湖博物館) 活動時間 10時30分～(15時)
博物館内でスケッチ等。また、希望者は博物館の敷地内や湖岸で吟行も行います。
持ち物/スケッチブック、鉛筆、水彩絵の具等、スケッチの道具。
俳句をされる方は、それぞれ吟行に必要なものをお持ちください。



<びわ博 de 俳句>

右の写真は、10月16日の曾根沼のもので、みごとに空が映り込んでいました。この日は晴れた空の向こうに伊吹山が見えていて絶好のスケッチ日和でした。気温は23度。紅葉を楽しむにはまだ早い感じでしたが、釣りをする人、バドミントンを楽しむ人、犬の散歩に訪れた人の姿が見られました。湖面はあらかた菱で覆われていて、岸边には蘆の花が咲いていました。姿は見えませんが、コゲラの声も聞かれました。鈴虫でしょうか？細く虫の音が聞こえました。歳時記の「残る虫」とか「すぎる虫」というのがこれにあたるのではないかと思います。



(4) 近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 23名】

グループ担当職員: 橋本道範

【活動報告】

■ 9月28日(水) 参加者:6名

びわ博フェスのワークショップの準備。大麦を10cmと12cmにカットしました。また、試作品を作りながら、どうすればわかりやすく製作できるか相談しました。

■ 10月12日(水) 参加者:6名

引き続き試作しながら、製作方法を議論しました。角度を変えたり、切り方でいろいろなスターができました。

■ 10月23日(日) びわ博フェス「大麦で星形のオーナメントを作ろう」

参加者:5人、体験者:11人

作業時間は30分程度でできたのですが、小学校低学年以下の子どもたちが多かったので、集中力を保つのが難しかったです。途中からお父さん、お母さんの手を借りながら、最後まで頑張ってもらいました。みなさん、喜んで持って帰られました。

■ 11月2日(水) 参加者:6名

びわ博フェスが終わったので、通常の作業にもどりました。各自、地機織り、綿繰り、糸紡ぎなどの作業を行いました。

【活動予定】

■ 織姫の会

11月26日(土)、12月7日(水)、24日(土)

■ びわたんと共催「綿にふれてみよう」

1月14日(土)



10月23日びわ博フェス

(辻川智代)



(5) 大津の岩石調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 20名】

グループ担当職員: 里口 保文

【活動報告】

■ 10月の活動

○びわ博フェスに使用する岩石の採取 参加者5名 日時:10月1日(土)10:00~11:30

場所: 犬上川。犬上郡甲良町 高速道路の桁下付近。

びわ博フェスのワークショップで使用するための石を採取しました。

野洲川には無かった、石灰岩や溶結凝灰岩が多くありました。それぞれの川によって違う石もあり、地質の違いや面白さを感じました。変わった石が多かったので、探すことが面白くて時間を忘れてしまうほどでした。

一つずつの石に対して特徴などを調べられなかったため、次からはしっかりと記録をつけたいです。

○野洲川と犬上川で採取した岩石の同定 参加者5名 日時:10月19日(水)10:00~

場所: 琵琶湖博物館 大人のディスカバリー オープンラボ

採取した岩石は見た目では区別がわかり辛いので、5万分の1地質図を見ながら同定を行いました。

○びわ博フェス

「ワークショップ」参加者8名 日時:10月23日(日)10:00~11:45

場所: 琵琶湖博物館 実習室 1

プログラム名:「石を比べてみよう・石にかおを描いてみよう」

目的: わかりやすく石の説明をしながら興味をもってもらう

最初は全然人が集まらなくて焦りましたが、低年齢の方もOKにしてから沢山の方々が集まってくださって大盛況になりました。「どれがいいかな」と石を手にとって見比べたり、色々なペンを使いながら楽しそうに絵を描いたり、可愛い子供さん達

の姿が見られて良かったです。なかには、真剣に石の特徴を10個くらい書いたり、図鑑を見て勉強していた子供さんもいて、偉いと感じました。準備など大変な事もありましたが、来年以降もまたできればいいなと思いました。

「ポスターセッション」参加者2名 日時:10月23日(日)13:30~14:00

場所:琵琶湖博物館 エントランス

目的:大津の岩石調査隊の活動内容を、博物館に来られた方に広く知ってもらおう。

【活動予定】

■11月の活動はなし

12月 4日(日)10:00~ 湖南省石部の灰山野外調査

12月18日(日)13:30~15:30 琵琶湖博物館 実習室 1 地学勉強会 天文学地球科学からみた岩石

1月:屋内で地学勉強会 岩石持ち寄り情報交換会

2月:新年度活動計画についての会議 地学発表会



(6) 温故写新

【活動報告日の活動会員数(のべ) 18 名】

グループ担当職員:金尾 滋史

【活動報告】

■10月1日(土) 10:00~ セミナー室 博物館イベント「初心者のための生き物写真撮影講座」参加者7名

博物館のイベントとして、生き物写真の撮影についての講座を共催で開催しました。はじめは座学で撮影方法などを学んだ後、生活実験工房などを中心に実際のフィールドで、生き物の撮影を行いました。少人数であったため、逆にじっくりと写真の基礎やカメラの操作方法などについても情報交換ができました。参加者内では非常に好評であったため、また来年度も企画したいと考えています。

■10月22日(土)、23日(日) びわ博フェス2022におけるポスター展示、記録写真撮影 参加者 のべ4名

びわ博フェスにおいて、活動を紹介するポスターを展示しました。またこのイベントにおける館内やワークショップの様子を記録係として撮影しました。他のグループの方との交流もできて、良い機会となりました。今後も、他はしかけグループなどから依頼があり、こちらの都合がつくようでしたら、記録係などの協力ができればと考えております。

■11月26日(土) おでかけ撮影会 in 醒ヶ井・柏原 参加者7名

久しぶりの撮影会となりましたが、これまで3回延期となっていた、米原市の醒ヶ井、柏原を訪れ、旧中山道沿いの街並みなどを撮影しました。醒ヶ井では地蔵川のバイカモなどもまだ咲いていたほか、柏原では大橋宇三郎コレクションの撮影地となった場所も特定でき、今昔写真の撮影も行うことができました。

【活動予定】

■12月10日(土) 10:00~ おでかけ撮影会 in 石部 JR 石部駅 10:00 集合



(7) 暮らしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0 名】

グループ担当職員:中川 信次

【活動報告】 活動はありませんでした。

【活動予定】 未定です。



【活動報告】

■『びわ博フェス 2022』で行うワークショップの準備 日時: 9月25日(日) 13:00~17:00

場所: 琵琶湖博物館 実習室2 参加者: 5名

活動内容: 10月23日に行われる『びわ博フェス 2022』のワークショップ『粒度表作り』の準備を行いました。

当日の流れについて打ち合わせした後、前回までの活動に引き続き、ワークショップ用の粒度(粒の大きさ)ごとにふるった土の作成を行いました。

電動式篩機での土のふるい分けと同時進行で、粒度表試作品の改良にも取り組みました。前回の活動で、ほぼ完成形の粒度表はできていたのですが、粒度の小さい土の接着に改善の余地があり、ボンドの量や接着の方法をいろいろ試してみることにしました。土のふるい分けは少しずつしかできないため、限られた量の土しか試作に使うことができず、知恵を絞って試してみるものの、改良品の試作はかなり難航しました。

活動時間ぎりぎりまで土をふるい続け、ワークショップ定員分の量の土は確保することができましたが、粒度表の改良品の試作については課題が残ってしまいました。そのため、数名のメンバーがそれぞれの自宅にてさらに試作を行うことになりました。試作の結果についてはメールなどで報告し、改善点を検討しました。



〔ワークショップの準備中〕

■『びわ博フェス 2022』で行うワークショップの最終準備 日時: 10月18日(火) 13:00~16:00

場所: 琵琶湖博物館 実習室2 参加者: 2名

活動内容: 『びわ博フェス 2022』で実施する、ワークショップ『粒度表作り』の最終準備とリハーサルを行いました。

ワークショップのスタッフ役と参加者役に分かれ、当日と同じ流れで粒度表を作成して作成に必要な時間を計測し、当日のワークショップの時間配分について検討しました。

粒度表作成の課題として残っていた、小さい粒度の土の接着もうまく行うことができ、やっと自信作の粒度表を作成することができました。万全の態勢で当日を迎えられるよう、細かいところまで打ち合わせを行いました。

■『びわ博フェス 2022「地域・びわ博」シンポジウム』の聴講と交流会への参加

日時: 10月22日(土) 13:00~17:00

場所: 琵琶湖博物館 ホール・セミナー室 参加者: 2名

活動内容: 10月22日に琵琶湖博物館で行われた『「地域・びわ博」シンポジウム「一緒に楽しく発見したのは？」』を聴講しました。様々な活動をしておられる団体の方々の発表をお聞きすることができました。

その後、セミナー室で行われた交流会にも参加しました。琵琶湖博物館のはしかけグループさんやフィールドレポーターの皆様だけではなく、地域で活動しておられる団体や企業の方々、高校生の方々と交流できる、とてもよい機会となりました。それぞれの自己紹介の後、交流会の後半では、他の団体の方々と自由に歓談できる時間が設けられていました。壁面には、各団体さんの活動紹介のポスターも掲示されていました。このような場への参加は初めてでしたが、せっかくの機会でもあり、私達も、ポスター前にて積極的に皆様に活動紹介をしたところ、多くの方々から、たくさんの質問をしていただきました。異なる立場の方々の視点からのお話や、予想外の質問などから、自分たちの活動の新たな一面に気づいたり、違う分野の活動をしていても、それぞれの活動の中での思いがけない共通点を発見し、その話題でおおいに話が盛り上がりました。直接お話することで、各団体の方々の活動に対する熱い思いが伝わってきて、その思いをお互いに共有することができたことは、私達にとって、たいへん励みになりました。このようなご縁の輪がどんどん広がり、繋がりができることで、地域での様々な活動がより一層盛り上がっていききっかけになればと思います。またこのような機会があれば、ぜひ参加してみたいと思っています。

■びわ博フェス 2022 ①『ポスター解説』 日時:10月23日(日) 11:30~12:00

場所:琵琶湖博物館 アトリウム 参加者:2名

活動内容:10月23日(日)の11:30~12:00に、アトリウムに掲示しているポスターの前で、活動紹介をする『ポスター解説』を行いました。

今回の掲示では、古琵琶湖発掘調査隊のこれまでの活動を概観できるポスターと、最近の主な活動についてまとめたポスターの計2枚を掲示しました。前回のびわ博フェス以降、新型コロナウイルスの影響で活動を制限せざるを得ない状況もあった中、メンバー達と活動の進め方について模索しながら歩みを止めないよう努力し、活動を維持してきました。それらのことなども踏まえ、最近の活動について紹介したポスターについては、ポスター作製の担当メンバーが、様々な活動が続いていく様子を線路にたとえて、こだわりのポスターを作ってくれました。

ポスター解説では、一般来館者の方々やポスターを掲示しておられた各団体の方々に活動紹介をさせていただくことができました。たいへん熱心に説明を聞いてくださり、「一般の人達が調査に参加しているところがいいですね」と、言ってくださった方もおられました。私達も、他の団体の方々の力のこもったポスターを拝見したり、説明をお聞きしたりしながら、とても楽しい時間を過ごすことができました。

■びわ博フェス 2022 ②『ワークショップ:粒度表作り』 日時:10月23日(日) 13:00~13:45(1回目)・14:00~14:45(2回目)

場所:琵琶湖博物館 実習室1

参加者:ワークショップスタッフ:5名・ワークショップ参加者:6名(付き添いの方の人数は含まず)

活動内容:午後からはワークショップ『粒度表作り』を実施しました。

ワークショップでは、前半はパワーポイントによる古琵琶湖層群についてや、地層を観察する際のポイント、粒度の区分などについての説明、後半は粒度表の作成を行いました。

参加された方々はご家族での参加で、小さなお子さんも大人の方も、それぞれ粒度表作りにチャレンジしていただきました。

前半のパワーポイントを使った説明は、小さなお子さん達には難しいかなと思っていたのですが、お子さん達は、皆、とても楽しそうに説明を聞いてくれました。大人の方々も、真剣なまなざしでパワーポイントの画面を見つめ、何度も頷きながら熱心に説明を聞いておられました。後半の粒度表の作成では、6種類の粒の大きさに分けた土を見比べたり、接着の際に実際に土に触ることで粒度の違いを触感として感じながら、粒度表作成に取り組んでもらいました。

大人の方々も、集中して取り組む時間そのものも楽しみながら、丁寧に粒度表作りに取り組まれ、お子さん達も、異なる粒度の土を順に並べていくことを楽しみながら、とてもきれいに粒度表を仕上げてくださいました。粒度表は、土の粒の大きさの基準を他の人と共有することができるツールです。最後に、完成した粒度表を見ながら、粒度の区分を他の人と共有するメリットについて説明しました。説明と作成で45分間という、少し長めの時間設定でしたが、参加した方々は、作る楽しさだけでなく、少し難しいことを知る嬉しさも感じられたようで、私達にとっても、ワークショップの新しい可能性を感じることができる、手ごたえのある貴重な経験となりました。

『粒度表作り』は、普段の私達の活動の中で継続して取り組んできたもので、今回は、その活動の延長線上でワークショップの内容を構成しました。私達も、ワークショップの準備で土をふるったり、試行錯誤しながら試作を繰り返したり、パワーポイントでの説明を考えたりする中で、粒度についての理解を深めていくことができました。その意味においても、今回のワークショップの実施そのものも、私達にとってたいへん学びのある、意義のあるものになりました。今回のワークショップ実施への取り組みを通じて粒度について学んだことを、ぜひ、フィールドでの調査に活かしていきたいと思っています。



〔ワークショップ:粒度表作りの様子〕

【活動予定】

■未定



(9) ザ！ディスカバはしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ担当職員: 田畑 諒一

【活動報告】

■新型コロナウイルス感染対策のため、ディスカバリールームは時間入替制でディスカバリー券(整理券)を配布した上で、水曜から土曜日の開室となっています。12月からは火曜から土曜日の開室予定です。

■11月23日(水・祝)に「森のたからもの」を開催予定でしたが、雨天のため11月26日(土)に延期としました。当日の様子は次回のはしかけニューズレターで報告したいと思います。

【活動予定】

■引き続き、時間入替制・ディスカバリー券制で開室曜日を制限しての開室となっています。

■冬休み期間にディスカバリールーム内でちょっとしたイベントをする予定です。詳細は12月頃に館ホームページでお知らせする予定です。

ディスカバリールームで「こんな楽しいことしたい！」などアイデア・提案があれば、お気軽に田畑・妹尾まで声をかけてください。

いつでもお待ちしております！

新しいメンバーも大募集中です。一緒に楽しい発見(ディスカバ)してみましょう！

また、ザ！ディスカバはしかけでは、定期的にイベントを開催しています。ぜひご参加ください。



(10) 里山の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 36名】

グループ担当職員: 美濃部諭子

【活動報告】

■10月8日(土) 里山体験教室 下見 参加者11名

秋の里山体験教室の下見を行いました。紅葉にはまだ少し早い時期ですが、いろいろな植物を観察しながら当日の散策ルートを決めました。散策途中で今年もアケビを見つけました。当日参加者の方に食べてもらうために下見では取りすぎないようにします。クリの木もいくつかありましたが、ほとんどのものが中身が空っぽでした。残念。アラカシやコナラのどんぐりの違いを観察したり、ガマズミやスズメグリの実を食べたり、下見でも秋の里山を楽しみました。きのこも昨年より多く、いろいろな種類のきのこを見つけることができました。散策の後は、午後の活動の打合せをして下見を終えました。

この日はお昼ご飯を食べてから、はしかけの森でびわ博フェスの準備をしました。フェスではヒノキの枝でキースタンドを作成するのですが、皮をむくための「ヘラ」を竹で作りました。みんなで作るとあっという間に終わりました。



■10月16日(日) 里山体験教室 本番 参加者10名 一般参加者17名

今年度の里山体験教室は、天候不良により春は午前のみ実施、夏は中止だったため、秋の里山体験教室でようやく1日開催することができました。当日は天気も良く、気温もほどよい感じだったため、秋の里山を存分に楽しんでもらえました。

散策は、里山の中にある秋の色を探してもらいたかったので、秋色探しの紙を準備しましたが、実際にやってみるとまだまだ改善の余地がありそうです。恒例のアケビは本番子どもたちがたくさん見つけてくれました。食べるのも楽しみですが、見つけるのも



楽しみの1つです。

午後は、竹林の伐採と枝葉整理、木の名札づくり、そして里山遊びとして椅子作りをしました。名札づくりは、今回は広葉樹だったため硬くて切るのに苦労している子どもが多かったです。それでも、みんな最後まで自分で切っていました。椅子作りは昨年好評だったので、今年もメニューに入れました。各々試行錯誤しながら椅子を作りました。竹は少し強度が弱かったですが、1人で座るには十分立派な椅子が完成しました。

里山ではちょっとした工夫でいろいろな楽しみ方ができます。里山体験教室をきっかけに、どんどん山へ出かけて面白い発見をしてほしいと思います。



■10月23日(日) びわ博フェス 参加者 15名

里山の会では、びわ博フェスにおいて少しでも暮らしの中で里山の自然を感じてもらうことを期待して、普段活動をしている里山の素材+αを使って、ヒノキの枝先を活かしたキースタンドづくりを提供しました。

夏場はするりとむけるヒノキの樹皮もこの時期になると硬くなるので、柔らかくむきやすくするためにヒノキの枝先を事前に水につけ、台座にするヒノキ材やケヤキ材などを準備しました。秋晴れの午後のひと時、作業台を生活実験工房の庭先に据えてオープンし悪戦苦闘しながら各々皮むきに興じてくれました。20組の一般参加者は、それぞれの思いを込めてお気に入りの作品を完成させ満足された様子でした。

ご参加いただけなかった方々は、次回に是非お越しください。お待ちしております。(寺尾)



【今後の活動予定】

12月4日(日) 紙すき体験

12月25日(日) 凧作り・凧あげ

1月14日(土) 里山体験教室 下見

1月22日(日) 里山体験教室 本番



(11)植物観察の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 7名】

グループ担当職員：芦谷美奈子

暑い夏から突然涼しい秋となり、山の紅葉も早足に駆け抜けていきます。

【活動報告】

■10月2日(日) 見たいものを持ち寄って観察 博物館オープンラボ 13:30~16:00 参加者 4名

駐車場で参加メンバーと一緒にになり、先日(前回のニューズレターに別記として記述)博物館の東入口で見つけたヤブツルアズキ、タンキリマメを観察。アレチヌスビトハギが大きくなる中、ヤブツルアズキの花はもう数えるほどしか残っていないうえに花が小ぶりになっていた。ヤブツルアズキの実は真っ黒になっていて細く約5cmの長さ、中の種子も黒いのだろうかと採集をしようとしたが、チヂミザサのくつつく種子、いわゆる“くつつきムシ”があまりにも多く、採集を断念。その横にあるタンキリマメはもう花は無く、実もほとんどが弾けていた。トキリマメはもう少し葉が大きい、形や質感も違う、などと話をしている間に集合時間を過ぎてしまい、急いで博物館に入館。

久しぶりのオープンラボでの定例会。この日は、各自が持参した物を皆で観察。

持ち寄り観察の場合、自分が見たいものを博物館の実体顕微鏡、顕微鏡を使って観察できること、自分だけでは分からなかったり気づかなかったりしたものもメンバー同士で話すことで分かっていくこと、複数の種類の図鑑（博物館の大きいものや芦谷先生が揃えてくださったもの）で記述を比べながら読むことができること、自分では採取できない物も見ることが出来ること、などの楽しさがある。

早速、持ち寄ったランの花を分解、本当に入り口が狭く虫たちはぐるっと回り込んでいかないと奥の蜜腺にたどり着かないことを実感。ヒガンバナや他の花粉を見た後、カリガネソウとセンニンソウの花を観察。カリガネソウの雄しべは花卉から長くはみ出し、くるりと上向きに曲がっており、吸密に来た虫たちの背中に花粉が付くようになっているのは明らか。でも、雌しべも同じ位の長さでくるりと上向きなのは、虫がもぐり込むのをねらってはいない？どうやって背中に付くのか？雌しべの先はなぜ2つに分かれている？など分解することで疑問は増えた。この長い雄しべ雌しべは開花してから伸びるのか？を知りたくて、膨らんだ蕾を分解すると、蕾の中にはクルクルとコイル状に巻かれた雄しべ雌しべが満杯に入っていて、感嘆の声が上がった。センニンソウは、たくさんの雄しべの中に雌しべが埋もれる形になっていて、雌しべの付け根（下部分）に細い無数の毛が見られた。この毛が種子になったときの羽毛状の毛になるのだろう。今回は時季外れに咲き残っていた花を分解したので、来年はもっと花が沢山手に入るときに、この毛の状態を顕微鏡で詳しく見直してみたい。



■11月6日（日）お出かけ観察 びわこ地球市民の森（守山市）へ 10:00～13:10 参加者 3名

2ヶ月前に見られたミソハギ、ツルマメ、シロバナサクラタデは、枯れて実も無くなっていった。この日は、どんぐりを見比べながら観察することができる場所を選んだ。まず、アラカシとシラカシ。葉が細く、シラカシに見える木もアラカシのことが多く、びっくりした。特に植樹された公園などでは気をつけて見ていかないといけないと感じた。アラカシは、葉裏の密集した毛がありよく見ると葉裏の色も金色っぽいのが、シラカシは葉裏に毛が無くつるつるとしている、手触りでは区別はつかなさそう。殻果（どんぐり）では、てっぺんの部分にへこみが無いのがアラカシ、へこみがあるのがシラカシ、これは実の大きさに関係ないことも確認できた。

2つめは、クヌギとアベマキ。これらは以前から葉裏に毛がある（アベマキ）・ない（クヌギ）で見分けていた。殻果、殻斗（いわゆるどんぐりの帽子）では見分けられないのか？と、両方を見比べながら歩いたがなかなか区別点は見つけれなかった。違うようにも思えるが、ただの思い込みなのだろうか？

次は、前回も上手く見分けられなかったナラガシワ（葉柄が0.5～1.5cm、葉の鋸歯が丸く先が針状、実で区別できる）とカシワ（葉の鋸歯に丸みがあり先が針状にならない）を見に歩いた。この公園はナラガシワが多く植えられており、この季節に大きいどんぐりがたくさん拾えることも楽しい。9月に葉だけでナラガシワとカシワを区別していたので確認のためにそれらの木の周囲で殻果、殻斗を捜した。明らかにナラガシワ、カシワと分かるものと、そうでないものがあったので、採集したものを12月に皆で観たいと考えている。

【今後の活動予定】

- 月に1回、第1日曜日の午後を予定しています。
 - 外部へのお出かけの場合は、これに限らず、変則的になります。
基本的には、危険が無く雨でも歩ける所で、大雨や警報が出ない限り「行方」方向でいます。
 - 12月4日（日） 博物館実習室またはオープンラボで「持ち寄り観察」 13:30～16:00 ごろ
 - 1月8日（日） 博物館周辺、樹冠トレイルの観察 雨天の場合は実習室 13:30～16:00 ごろ
- ※新型コロナウイルスの感染拡大等によっては、お休みになることがあります



(12) たんさいぼうの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 24名】

グループ担当職員 大塚 泰介(影の会長)

【活動報告】

10月23日（日）のびわ博フェスで、「たんさいぼうの会」は「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」とともに、マイクロアクアリウムを乗っ取りました。今回は三密回避の要請もあり、例年のような「珪藻マスター」などの定番ワークショップはできませんでしたが、参加者はマイクロアクアリウムの「マイクロバー」に陣取って、見に来た人たちと思い思いの交流をしていました。

個人活動は相変わらずゆっくりとですが進んでいます。影の会長が2016年に採集してきた黒沢湿原（徳島県三好市）の珪藻を観察していた石井千津さんは、何と200種以上もの珪藻を見つけ出し、影の会長と協力してその9割ほどを種レベルで同定しました。現在、論文の形になるよう必要情報を整理しています。他にも、約20年前に採集した安曇川の珪藻、10年あまり前に採集

した曾根沼・野田沼の珪藻、系統的な採集を始めたばかりの琵琶湖岸のヨシの茎の上の珪藻などを、少しずつ研究しています。さらに学生会員たちが、自分の研究フィールドで面白い珪藻をいろいろ発見してきています。

【活動予定】

新型コロナウイルス感染症が第8波に突入し、また集まって行う活動の計画が立てにくくなってしまいました。感染状況が落ち着いたら、しばらく行っていなかった「たんさいぼうの旅」を復活したいと思います。福井県立年縞博物館の見学と、西坂さんのフィールドである千種川(兵庫県)の訪問を計画していますが、感染状況を見ながらの時期判断になります。冬の閑散期のあいだに感染状況が落ち着いたら、珪藻植生報告で顕微鏡写真を一定のスペース内に効率よく配置する「珪藻の詰め込み教育」を計画しています。

個人研究や面会によらない共同研究は、通常時と同じように進めていきます。



(13) 田んぼの生きもの調査グループ 【活動報告日の活動会員数(のべ) 26名】

グループ担当職員: 鈴木 隆仁

COVID-19 第8波の足音も聞こえつつあるような気もしますが、行動制限がほぼ解除されて博物館にもにぎわいが戻って来たように感じます。この春、久しぶりに実施できたグループ全員による調査結果を検討すべく、調査筆の用排水の確認などの補足的な調査を行った上で、結果報告会を開催しました。

【活動報告】

■10月4日(甲良町), 6日(愛荘町), 13日(豊郷町), 14日(向日市), 19日(長浜市), 20日(京都府精華町), 25日(木津川市加茂), 27日(木津川市木津・上狹), 29日(京田辺市), 30日(京都府大山崎町・長岡京市), 11月2日(八幡市), 3日(城陽市), 4日(京都市伏見区), 8日(大津市石山寺), 10日(大津市月輪, 大江): 山川代表が、5月から6月に大型鰓脚類の採集調査を行った水田を再訪し、調査時に記録が漏れていた用排水路の状況、秋季における土壌の乾燥度合いの確認を行いました。

■10月23日: びわ博フェスでポスター展示を実施し、石井、山川が交代で来場者にグループの活動の説明を行いました。

■11月13日 13:30~16:00: 琵琶湖博物館実習室2で本年度の結果報告会を行いました。最初、山川代表より2022年度の調査結果をまとめた資料が配布され、説明がありました。瀬田・石山寺地区では、アジアカブトエビが優勢になる傾向は進んでいますが、アメリカカブトエビが完全には駆逐されず、今後も共存状態が維持されると予想されました。ただ、この地区では田んぼの宅地化が進んでおり、人間がカブトエビを駆逐することになると改めて感じられました。甲良町から愛荘町にかけて実施した広域調査ではメッシュコードの空白地点を埋めることはできませんでしたが、トゲカイエビの生息は確認できませんでした。トゲカイエビやカブトエビにとって、愛知川を越えて東に生息域を広げるのは難しいようです。長浜市の調査では、今年初めの大雪の影響はほとんどなく、草野川との合流点以東の姉川流域でエビ類を見つけることができたことが報告されました。ただ、生息地は特定の地区に偏っており、土壌や灌漑様式だけでその理由は説明できず、謎はまだ解けたとは言い難い状況でした。京都府南部の調査では、同地域の田んぼの形状が滋賀の田んぼとは全く雰囲気が違うこと、また、名神高速道路や京滋バイパス沿いの一部の地域にアメリカカブトエビが生息していたものの、多くの地点でアジアカブトエビの生息が確認されたことが報告されました。県南部の多くの地点にアメリカカブトエビが生息するなかで、これらの道路沿いの一部の地域だけにアジアカブトエビが確認されている滋賀県南部と真反対の状況は、道路を通行する車両に付着した土による卵の運搬を予想させる結果として非常に興味深いものがありました。

続いて、本年度から活動に参加された石田さん(小学4年生)より、ナナフシモドキの糞と卵に関する自由研究の報告がありました。植物の種に擬態してアリに運んでもらうことを確認した実験や、食べた葉の種類によって糞の色やにおい、産卵数が変化するという結果は非常に興味深く、大変好評でした。

最後に、2種のカブトエビの飼育実験のために博物館屋上に設置しているコンテナを全員で確認しました。雨による土の流出を防ぐために屋根を設置した影響で固まってしまった土は、タイミングを見計らって表面を湿らせ、表層を砕くことにしました。

【活動予定】

来年3月に総会を開催する予定です。1月に入ったら、山川代表よりメールで日程についての連絡を行います。

(石井 千津)



(14) タンポポ調査はしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0 名】

グループ担当職員: 芦谷 美奈子

<「タンポポ調査・西日本 2020」の報告書はまだ届きません (2022 年 9 月現在)・・・>

「タンポポ調査はしかけ」は、「タンポポ調査・西日本」というタンポポの参加型広域調査に協力しながらタンポポについて学ぶことを目的にしているグループです。5年に1度、2年にわたって実施される広域調査ですが、2020年調査については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため活動が制限されたので、2021年春まで調査が延長されました。滋賀県でも、2019年3月～2021年5月分の3年分のデータを事務局に提出しました。事務局に問い合わせたところ、まだ編集しているようで、報告書はまだ届いていません。入手したら、ご協力いただいた方々に連絡します。

【活動報告】

新規の活動報告は特にありません。

【活動予定】

現時点では、特に活動予定はありません。

次回(2025年)の広域調査に関して、まだどうなるか事務局の判断が出ていません。何か方針が決まりましたら、この場で報告いたします。

(文責: 芦谷)



(15) ちこあそ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 4 名】

グループ担当職員: 中村久美子

※一般参加は、びわ博ホームページからのオンライン予約制です。また活動時間は、昨年度の午前・午後の2部制から、4月からは10時から14時までの一日の活動としています。

【活動報告】

◆10月の活動 10/19(水) 7組(幼児11名、大人7名)。

①いつものちこあそ

そろそろ春に植えたサツマイモが育ってるんじゃない？ということで、みんなで芋掘りをしました。紅あずま、鳴門金時、安納芋が植わっているはずなのですが、葉とツルに覆われて、何が何だか分からないサツマイモ畑。とにかく、ツルを除けながら、スコップ片手に、みんなで掘り始めました。昨年はネズミサイズのちっちゃな芋ばかりだったので、今年はどうかと期待が膨らみます。すると・・・、なんと！大きな芋がゴロゴロと見えました！小さなものもありますが、大きなものも、大収穫でした。時々出て来るダンゴムシやいも虫、ミミズにもビックリしたり、かわいがったり、土に触れて楽しい時間です。

サツマイモはしばらく熟成させると美味しいのですが、せっかく掘ったし、ということで火をおこし、焼き芋でそれぞれ食べていただきました。自分で掘った芋は美味しかったよ！とのことでした。

②びわ博フェス 10/23(日) 午前4組(子ども7名、大人6名)、午後2組(子ども2名、大人2名)

「ちこあそ特別版」として、いつもは幼児対象なのですが、大きな子どももどうぞと実施しました。生活実験工房の裏の森へ探検に出かけて、クスノキの葉の香りをかいだり、ながーいながーいウズのつるをみんなで引っっこ抜いたりしました。「葉っぱノート」づくりと題して、画用紙に好きな葉っぱを貼り付ける遊びもしました。子ども達の幅も広く、みんなが楽しめる時間でした。

◆11月の活動 11/16(水) 8組(幼児12名、大人8名)

晴れたり、曇ったりで、そろそろ冬を感じる日。前回掘ったサツマイモが美味しくなっているはず！ということで、早速焼き芋にしました。炭火をおこして、サツマイモを新聞でくるんで、たっぷり濡らしてアルミホイルくるんで、火へ。「遊んでいるうちに焼けるよー」と田んぼで虫探し。今回、新しく幼児も使いやすいルーペを新調してもらいました。小石が宝石に、ヨモギハムシは怪獣に、アカハネオンブバッタはお化けに、大きくなって見えます。ルーペでわくわく楽しんでいるうちに、芋が焼け、親子でホクホク楽しんでもらいました。コロナ対策でまだまだみんなで食事を楽しむことはできない状況ですが、親子が五感で自然を感じ、幸せな時間になりました。

残った炭火で、イチイガシを煎りました。工房の横には、今ちょうどイチイガシのドングリが実を落としています。遠い昔は主食やったのかなあと話しながら、口へ。ねっとりとしたドングリの味も楽しんでもらいました。



10月サツマイモを掘りました。今年はたくさんとれたかな!? びわ博フェス「葉っぱノート」 ルーペで見るとビックリ!

【活動予定】びわ博ホームページで2か月前から参加予約ができます。

活動月	実施日、時間	タイトル	内容
12月	12月21日(水) 10:00-14:00	ちこあそ12月	定員10組 予約制です。びわ博イベントHPからお申し込みください。 毎月おおよそ第3水曜日に行っています。(8月はお休み) コロナ禍の実施についてはその都度判断します。 ルーペでの自然観察、森の探検、ガチャコンポンプの水遊びなど やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ポチポチ過ごします。
1月	1月18日(水) 10:00-14:00	ちこあそ1月	

はしかけの新しいメンバーも飛び入りも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう!



(16) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会 【活動報告日の活動会員数(のべ) 16名】

グループ担当職員: 大塚 泰介

【活動報告】

■10月23日(日) 参加者:5名(たんさいぼうの会のメンバー含む)

びわ博フェスでワークショップを行いました。たんさいぼうの会と合同でマイクロバーで展示している生き物の解説やシアターの大きな画面を使って当日琵琶湖で採集されたプランクトンの解説を行いました。今回参加したはしかけメンバーは百戦錬磨の達人から大学生まで様々でしたがそれぞれ素敵な解説で来館者の方に楽しんで頂いていたように思います。



マイクロバーでの解説の様子



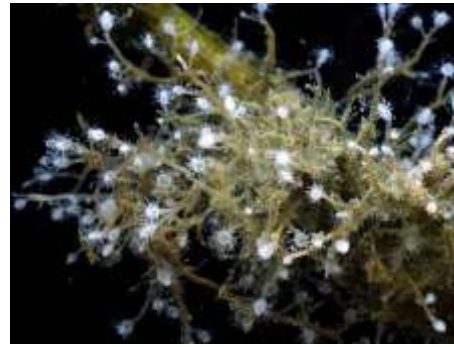
シアターでの解説の様子

■11月13日(日) 参加者:11名+学芸員1名+見学3名

数か月ぶりに観察会を行いました。今回は博物館前と瀬田川のプランクトンや水草に付いた生き物を観察しました。水草に付いたラップムシや藻類を食べるワムシが特に注目されていたように思います。また、会員の方の撮影したプランクトンの動画も見せて頂きました。長時間の観察の末、撮影された貴重なシーンや斬新で面白い発想の動画など見ごたえのあるものでした。



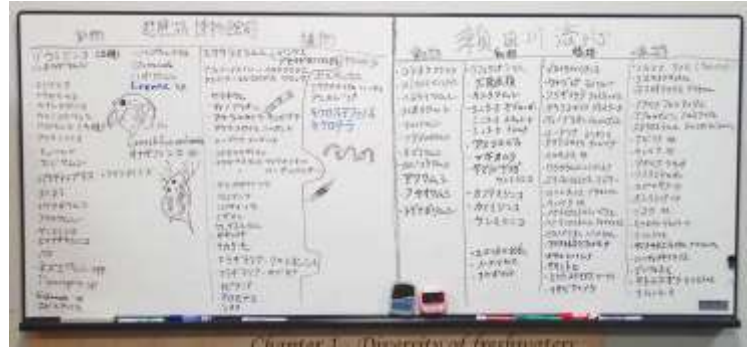
フトオケブカミジコ



群体性ヒドラ



観察会の様子(11月13日)



11月13日に観察されたプランクトン

【活動予定】

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。見学・参加希望の方はグループ代表アドレスまでお問い合わせください。



(17) びわたん

【活動報告日の活動会員数(のべ) 4名】

グループ担当職員: 安達克紀

【活動報告】

■10月23日「くるくるカラフル☆たねとばし」 参加者:17名 びわたん:4名

びわたんのワークショップは、恒例の「たねとばし」です。まずは種って何？どんな種がある？とお話からはじまり、秋のドングリやひつつき虫、もみじの種などを紹介しました。次に飛ぶ種ニワウルシツクバネを紹介しました。そして、この2種の種の模型を折り紙で作り、最後に、飛ばして落ちる姿を見て楽しみました。

びわ博フェスが久々に開催され、多くの方々が集い博物館を楽しむ姿に自然と元気が沸いてきました。長くはしかけ活動をしてきましたが、改めてはしかけ活動は自分のパワーの源だったんだ！と確認できた1日でした。





【活動報告】

■9月25日(日) 参加者: 6名

イタチの徐肉、カルガモの徐肉、カワラバトの骨のクリーニング、キツネの組み立てを行いました

■10月8日(土) 参加者: 5名

ハクビシンの徐肉、イタチ2体分の徐肉を行いました。

また、10月23日開催予定のびわ博フェスのための準備作業を行いました。

■10月23日(日) 参加者: 7名

琵琶湖博物館において開催された、琵琶博フェスにおいて来館者の方との交流活動を行いました。私たちはおとなのディスクアリーナを使用して、シカの骨を触っていただいたり、オープンラボを使って、実際の標本制作の様子を見ていただくプログラムを行いました。

約3年ぶりに開催されたびわ博フェスですが、この3年間は私達もびわ博フェスだけではなく、他のいろいろな面で来館者との交流が出来なかったため、3年ぶりに来館者の方達と接するという事で、始めの内はなかなか以前の感覚が分からず、どのようにやっていたか手探りで、不安の中、来館者の方にお声をかけさせていただきました。

参加したほねほねくらぶのメンバーの中には、この3年間に活動を始められた方も多く、そもそも初めてのイベントや来館者の方との交流だったり、改めてこの3年間に失われていたものに気づかされるような思いがしました。

そんなふうにして始まったプログラムでしたが、時間が経つにつれ少しづつですが、落ち着いて出来るようにもなり、幸いにして多くの方にご参加いただき、久しぶりにより緊張を感じながら、骨のお話などが出来て楽しい時間となりました。

■11月12日(土) 参加者: 2名

鹿の足の骨のクリーニング、タヌキの骨のクリーニングを行いました。

【活動予定】

12月1月の活動予定日は現在未定ですが、月に2、3回の活動を予定しております。



【活動報告】

■9月14日(水) 参加者: 3名 一般参加者 6名

活動内容: 季節の植物でアロマウォーターを作ろう(生活実験工房)

今年度3回目の秋のアロマウォーター作りは、「モミジバフウ」を採取して行いました。

モミジバフウを細かくする作業を行い、博物館の周りの樹木観察を一般の参加者も交えて実施しました。

モミジバフウによく似た樹木で台湾フウという樹木がありますが、モミジバフウは葉が5~7つに裂けるのに対し、台湾フウは3つに裂けます。樹木観察では、2つの葉っぱの違いを見てもらったり、葉っぱをちぎって匂いを嗅いだりしました。モミジバフウは青リンゴのような匂いがすると言われます。それを伝えたところ参加者のみなさんは首をかき上げておられました、「よい匂いがする」というのは実感してもらえました。モミジバフウを蒸留してできた芳香蒸留水もよい香りで、それぞれ好きな精油と混ぜてオリジナルスプレー作って楽しんでもらえました。

モミジバフウは紅葉がとてもきれいですし、とげとげの実クリスマスリースにも使われたりと、秋~冬にかけては香りだけでなく目でも楽しめる樹木です。公園などで見られる樹木なので、今回参加された方にも身近なところで発見してもらえたら嬉しいです。



■10月22日(土) 参加者:3名

活動内容:びわ博フェス 前日準備(実習室2)

びわ博フェスで使用する、植物や野菜から採れる絵の具を準備しました。

茄子とたまねぎ・クチナシなどは煮出しておき、黒豆やハイビスカス、マテ茶は一晩水に浸しておきました。

前日確認を行ったおかげで、足りないものを準備することが出来ました。

■10月23日(日) 参加者: 13名

活動内容:びわ博フェス ワークショップ「植物や野菜からできた絵の具でポストカードを作ろう」(実習室2)

今回のびわ博フェスでは、いつも実施している草木染め体験からヒントを得て、植物の色素を使ったワークショップが出来ないか考えてみました。子供の参加がメインとなるワークショップで、布を染めるのは時間もかかり、飽きるので、植物や野菜から採れる色素を絵の具のようにして準備し、好きな絵を描いてもらうワークショップを企画してみました。

準備した絵の具は以下の通りです。

- ・ハイビスカス → 水で抽出 → 一晩置き濾す → 紫色
- ・ハイビスカス → 酢で抽出 → 一晩置き濾す → 青紫
- ・クチナシ → よく煮出す → 濾す → 黄色
- ・マテ(グリーン) → 重曹水で抽出 → 一晩置き濾す → 深緑色
- ・オオボウシバナ(アオバナ) → 花びらを冷凍 → 解凍して絞る → 青色
- ・黒豆 → 水で抽出する際、錆びた釘を入れておく → 一晩置き濾す → 青黒色
- ・ラベンダー → 酢で抽出 → 一晩置き濾す → うすいピンク
- ・たまねぎの皮 → よく煮出す → 濾して重曹を混ぜる → オレンジ色
- ・赤たまねぎの皮 → よく煮出す → 濾してクエン酸を混ぜる → ピンク色
- ・コーヒー(インスタント) → お湯で溶かす → 茶色
- ・蘇芳(すおう) → 煮出す → 濾す → 濃いピンク色
- ・茄子(ヘタや皮) → 冷凍してためておいたものを煮出す → 濾してヨウバンを混ぜる → 青紫色



オオボウシバナやクチナシ、蘇芳(スオウ)といった、昔から染色に使用されている植物は、やはり和紙に塗ったときも発色がよく、安定していました。

また、茄子や黒豆などアントシアニンの色素は、上から酸性のものを塗ると赤く変化するので、各テーブルに酢を少し置いておき、色が変化する様も見て頂きました。

参加してくれた子供たちの絵がとても自由でかわいらしく癒されました。とても楽しいワークショップになりました。

【参加者の感想】

- ・植物から 12 色もの色をご準備頂き、思っていた以上に濃い色も出て、濃淡様々な色合いが綺麗でした。
- ・多くの方に参加頂き、良い活動になったと思います。身近な物が絵の具になるということで、子供達より付き添いの保護者さんたちがとても興味を持っていたのが印象的でした。
- ・SDGsにも適い、緑のくすり箱や博物館らしき内容で、酢や重曹をいれることで発色が変わるなど、また研究した内容だと思えます。
- ・楽しいワークショップで、参加したお客さんよりも楽しんでしまいました。自然の色って優しいですね。もっと色々な染色に挑戦したくなりました。



【活動予定】

- ・11月26日(土) 午前10:00～ 小豆ピロー作り(実習室2)
- ・11月30日(水) 午前10:00～ 季節の植物でアロマウォーターを作ろう(生活実験工房)



(20) 虫架け

【活動報告日の活動会員数(のべ) 14名】

グループ担当職員:八尋 克郎

【活動報告】

- 9月24日(土) 10時～15時 参加者:5名 場所:琵琶湖博物館 生活実験工房
びわ博フェスで行うワークショップの準備



- 10月15日(土) 10時30分～15時 参加者:3名 場所:琵琶湖博物館 生活実験工房
びわ博フェスで展示するポスターの作成



- 10月23日(日) 9時20分～16時 参加者:6名 場所:琵琶湖博物館
びわ博フェスでのワークショップ「あなただけの蝶コレクションを作ろう」及びポスター展示



また、「虫架け通信」を発行し昆虫に関する知識や各メンバーの報告を共有しました。



【活動予定】

新型コロナウイルス等の影響で予定が不透明ですが、可能であれば1か月に1回程度の野外調査や室内勉強会を行いたいと考えています。

昼夜問わず観察・採集などをして、滋賀県内の分布調査をしたいと考えています。

※都合により、新規会員の募集は当面見合わせております。(文責：梶田)



(21) 森人(もりひと)

【活動報告日の活動会員数(のべ) 20名】

グループ担当職員:林 竜馬

【活動報告】

■ 9月24日(土) 10:00~15時頃 参加者:(会員)3名

内容:朝方までの雨もやみ絶好の観察日和となり鳴谷溪谷から鏡山の散策をした。ヒヨドリバナ、ミミカキグサ、ホザキノミミカキグサ、コモウセンゴケ、ハシカグサ、キキョウ、アカバナ、イヌヒゲ、イトイヌヒゲなどの花、ソライロタケなどのキノコ類、動物はマムシ、ハンミョウ、コシメトンボなどが見られた。(太字は写真あり)

山頂付近にはヒノキの植林とシイ(大木)、アカガシ(大木)、ツバキ、クロモジ、ソゴ、ユズリハ、コナラ、リョウブ、コックバネウツギなどが見られた。

主な動植物の写真



■ 10月8日(土) 10:00~12時頃 参加者:(会員)7名 博物館職員)林

内容: 1. びわ博フェス 2022 関係

ポスター展示(10/22~23)とワークショップ 10/23(森のガイドツアー)で申し込み済み。

① ポスターの作り替えについては現状のままとし森人のメールアドレスの変更部分には修正テープを添付することにする。

② 森のガイドツアーは樹冠トレイルで「子供向けのクイズラリー」形式で実施することにした。

内容: 2. ガイドブック、見どころ情報やデータベースについて

「森人データベース」の作成について検討した。林さんから琵琶博のホームページで見ることができる「田んぼの生き物全種データベース」を教示いただいた。先ずどのような掲載項目にするかをエクセル版で作成してみることにした。

■ 10月23日(日)10:00~15時頃 参加者:(会員)7名 博物館職員)林

内容:びわ博フェス 2022 参加

am:クイズラリー問題を再確認し問題用紙と現場設置のA4ラミネート加工版を作成、設置した。

個人参加者の受付所をアトリウム出口付近に設置した。ポスター展示説明を行った。(詳しい説明を求める人は少なかった。)

pm:クイズラリー参加者はクイズ記入者とその家族などを合わせると延べ約200人で従来のガイドツアー(20人前後)と比較して大幅に増加した。事前受付で20組程度に対し現地で受け付けた個人参加者が大幅に増加したためである。ツアーで全体の流れに制約されるより自分たちのペースでできることが要因と思われる。この経験を今後の交流活動に生かしていきたい。



■11月12日(土)10:00~15時頃 参加者:(会員)3名

内容:近江富士花緑公園(植物園、21世紀の森)観察会

紅(黄)葉、果実、花や冬芽などこの時期ならではの植物の姿を見て回った。植物園内では桜やヤチダモはすでに落葉シミズナラ、ブナ、アメリカフウ、フウ、スズカケノキ、カエデ類、アカシデ、イヌシデ、メグスリノキ、ダンコウバイなどの紅(黄)葉が見られた。果実はブナ科など既に落下したのも多くまだ実を付けているものはイイギリ、カンレンボク、サンシュユ、クマシデ、アカシデ、ボダイジュ、**タラヨウ**、フェイスジョア、シナヒイラギ、ツルマサキ、カラコギカエデなどであった。花は**マルバノキ**のみで、冬芽はアカシデとイヌシデの違いを観察した。21世紀の森ではアカマツ、コバノミツバツツジ、コナラ、ソヨゴ、サカキ、タカノツメ、アオハダ、リョウブ、ガンピ、ウラジロノキやユズリハ等このあたりの雑木林にある樹木が多かった。(太字は写真あり)



【活動予定】

■11月26日(土)10:00~12:30頃 集合場所:職員駐車場

内容:太古の森、樹冠トレイルなどのツル植物の除去作業

* 剪定鋏など持ち合わせがあれば持参ください。長袖シャツ、タオルまたチヂミザサなどへの対策としてゴム長なども持参ください。

■12月10日(土)10:00~12:30頃 内容:太古の森、樹冠トレイルなどのツル植物の除去作業



(22) 琵琶湖梁山泊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0 名】

グループ担当職員: 由良嘉基・安達克紀

【活動報告】

10月16日(日)、米原高校生の会員2人が、地学部の部員と顧問を連れて琵琶湖博物館を訪れました。彼らは現在、古琵琶湖層群蒲生層の珪藻化石を調べ、当時の堆積環境を考えると、とてつもなく難しい課題に取り組んでいます。なぜ難しいかと言えば、200万年以上さかのぼると珪藻も絶滅種が増えてくるなどの理由で、生態情報がわからない珪藻が多く含まれるので、ただでさえ難しい珪藻を用いた古環境復元がさらに難しくなるからです。しかしこの難しいテーマで、みごと県大会を一位通過したとのこと。今後の展開に期待です。

びわ博フェス(10月23日 金)では、これまでの活動をまとめたポスターを掲示しました。コアタイムに、中高生は全く来てくれませんでした。しかし何人か見に来て下さった大人たちは、その活動内容と成果に大いに驚いていました。

【活動予定】

新型コロナウイルス感染症第8波の襲来によって、集まっていた活動がまた少し難しくなりました。当面は再びの決起に向けて、

少しずつ仲間を集めていこうと思います。新型コロナウイルス感染症が収束したら、総決起集会を開催したいと思います。卒業生も含め、是非ともご参加下さい。

中高生で他のはしかけグループに参加している人は、ぜひとも琵琶湖梁山泊にもご参加下さい。他分野の研究をしている中高生の仲間たちと交流し、切磋琢磨しましょう。参加ご希望の方ははしかけ代表アドレスまで。大人のサポートメンバーも募集しています。



(23) サロン de 湖流

【活動報告日の活動会員数(のべ) 2 名】

グループ担当職員: 中川 信次

【活動報告】

■10月2日(日)~14日(金) びわ博フェスポスターの検討

場所: メール協議

びわ博フェスで掲示するポスターの内容についてメールを介して協議しました。

■10月23日(日)びわ博フェス参加

場所: 琵琶湖博物館アトリウム 参加者: 2名 (はしかけ 2名)

11:30~12:00 のポスター解説時間を目途に参集し、久々に対面での情報交換を行いました。

【活動予定】

■今後の活動方針については、改めて協議を進めようとしているところです。



(24) 水と暮らし研究会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 14 名】

グループ担当職員: 楊 平

【活動報告】

■9月1日(木) 9:15-12:00 雨 参加者 7名

1. 活動先: 東近江市大中町

2 調査目的:

戦時中に計画されて、戦中から戦後に着手し完成した国営大中の湖干拓工事について経緯や、入植前後から今日に至るあゆみを 琵琶湖干拓大中の湖土地改良区 事務局長の五十子(いかご)善紀氏 ならびに 深井氏から説明を受けた。五十子氏は入植二世世代 深井氏は入植三世世代にあたり現地で活躍中の方々です

3 調査要旨:

(1) 講義内容の抜粋。

- ①干拓事業は昭和 16 年頃 緊急食糧増産の閣議決定を受けて昭和 18 年から内湖干拓工事に着手した。当初は小中の湖・入江・松原・水荃から始まった。戦後食糧不足が超深刻となり、昭和 21 年から国営大中の湖干拓工事の着手となった。
- ②現在は大中の湖干拓、小中之湖干拓、津田内湖干拓、水荃干拓 計 4 つの干拓地土地改良区で東近江地域干拓協議会を構成して、共有する課題に取り組んでいる。昭和 38 年に 12km 超えの堤防工事が完成し、昭和 39 年から排水ポンプが稼働を始め、100 日の排水期間を経て干陸化し昭和 41 年から入植が開始された。入植者は三集落で昭和 41 年 153 戸、昭和 42 年 63 戸 合計 216 戸 住宅建設は 41 年 38 戸、昭和 42 年 106 戸、昭和 43 年 72 戸で完了した。1.5ha(一部 1ha)単位の耕地が完全に基盤の目状に区切られ農道に隣接している。
- ③干拓事業は堤防工事の後 排水工事で水を抜くことが基本で原則埋め立て用土砂は搬入しない。秋田県の八郎潟、岡山県の小島湾も同じ部類に属する。一方 埋め立て工事は土砂を搬入して耕作地の地面をかさ上げすることで干拓とは区別されている。
- ④当初入植者には 1 戸当たり 1.5ha*2 筆と 1ha が 1 筆計 4ha が配分され苦勞されながら大規模営農が始まった。当初の収穫米は栄養豊富な土の影響もあり、特に美味しかったとの昔語りも残る。
- ⑤当初は地盤が不安定で苗を植えるのに腰近くまで埋まっの作業で、田植え機が沈み込み、応援の機械も同じように沈んでしまったとか。苦勞が絶えなかったそうだ。
- ⑥滋賀県内には 15 の干拓地が琵琶湖周辺の内湖と言われたところを干拓されている。この中で大中の湖は最大規模の干拓地である。

- ⑦大中の湖土地改良区で管理する区域は 1025ha、内農地は 927ha である。
- ⑧当初は基本米作中心であったが転作奨励を受けてスイカや野菜の露地・ハウス栽培(キャベツ、とうもろこし、トマト、花卉等)、近江牛の飼育も増えている。近江牛の 50% 約 7000 頭が大中産と言われている。
- ⑨琵琶湖湖面高さ 84m から干拓地の一番低い中央部で 3m 程度低いいため、排水作業が最も重要なテーマであり、排水機場は常に 24 時間稼働状態にある。
- ⑩用水は承水溝・外湖の水位が高いため樋門からの自然流入により各支線水路に配水されている。
- ⑪作業道路は、中央の幹線排水路両側と左右 1km 地点に幹線道路をこれと直交して 250m 毎に支線道路が設けられている。
- ⑫各戸の経営は安定しており、二世、三世の若年層への引継ぎも行われている。跡取り問題は少ないとのことである。
- ⑬野菜栽培等に転業して当面不要になった米作地は周辺の専業米農家がいり取ったり、借り入れたりで米作農家の耕地面積拡大意欲も積極的とのこと。
- ⑭大中の湖土地改良区は職員 7 名で運用中とのこと。
- ⑮周辺の内湖で干拓が進んだが、西の湖のみ水路を通じて現在も内湖で残っている。理由は上流から流入する水(河川)が多く干拓化すると周辺が冠水する要因があったとのこと。



■ 講義風景-1



■ 講義風景-2



■ 大中の湖土地改良施設

◆ 第一次産業である農業耕作であるが、この地域はただ作るだけの農業ではなく、売る仕組みまで考え、耕作物の種類の工夫で、新たな農業の明日を見据えた経営をされている地域だと感じられる。二世三世も地元で根付き、第六次化目指して発展しようとしている様子が見えたとの講演であった。

* 参考資料: 琵琶湖干拓大中の湖土地改良区,琵琶湖干拓 大中の湖プロジェクト用資料,
琵琶湖干拓大中の湖土地改良区,琵琶湖干拓大中の湖土地改良区の概要パンフレット,
東近江地域干拓協議会概要書,干拓地における持続可をめざして

■ 10月13日(水) 9:30-12:00 曇り 参加者 7名

1, 活動先: 近江八幡市 奥島山地区

2 調査目的:

随筆家 白洲正子さんが近江山河抄の中で語る言葉に誘われ、近江八幡市のはずれに静かにたたずむ奥島山地区を調査した。近江の中でどこが一番美しいかと聞かれたら、私は長命寺あたりと答えるであろう。近江八幡のはずれに日牟礼八幡宮が建っている。その山の麓を東へ廻って行くと、「津田の細江」で、その向こうに長命寺に連なる山並みが見渡され、葦の間に白鷺が群れている景色は、桃山時代の障壁画を見るように美しい。近江だけでなく日本の中でこんなにきめ細かい景色は珍しい。と・・・(一部省略した)

3 調査要旨:

- (1) 現在は頻りに車が往来する湖周道路と近江八幡市街との接続点である、津田の細江、渡会橋の橋上に立ち長命寺山を望んだ。昔はこの橋が、奥島集落との接点であったところである。
- (2) 大嶋神社・奥津嶋神社(近江八幡市北津田町)
大嶋神社は大国主命を、奥津嶋神社は奥津比賣命(おきつしまひめのみこと)をご祭神として合祀されている神社で春の松明祭りが有名である。鳥居前に馬の銅像があり、その右手には「馬場」と呼ばれるまっすぐな道「馬場」があって、春の例大祭で馬場を馬が駆け抜ける祭事がある。天智天皇時代、この辺り一帯が広大な放牧場(調教場)であった名残りと言われている。天智天皇蒲生野遊獵の際に立ち寄られ、元気な老夫婦にその理由を聞かれた際、毎日むべ(糞)を食していると聞き、「むべなるかな(もつともである)」と一言され、依頼 朝廷にむべを献上しているという。路上に「むべの郷」のPR看板があった。



■大嶋神社・奥津嶋神社



■同左の社殿



■「むべ」の木

(3)若宮神社(近江八幡市島町)と湧水

渡会橋を渡り 市立島小学校を左に見ながら直進した正面に若宮神社と小さな湧水池がある。鳥居の脇の杉の大木は祭りの松明の火で一部焼けた跡が残る。この若宮神社と渡会橋の南側にある百々神社とは、鳥居を向け合い、まっすぐ対面する珍しい形になっていると言われている。住民の老人の話では、生活用水は井戸を持つ家と、山からの水を頼りにしていた。水が不足した時はこの湧水を使っていたとのこと。神殿横の石垣回りから湧き出している水が小さな池に貯まっていた。



■若宮神社鳥居



■石垣の合間より湧水



■松明で焼けた杉

(4)天之御中中主尊神社(近江八幡市中ノ庄町)の水

以前2020.12.16に訪問し水質調査済みであるが帰路の途中の再訪で水質確認を行った。山中からの谷水のパイプの誘引で少し濁っている。今回測定値 気温 - 水温 - pH7.2 TDS 37 EC 70 2020.12.16 測定値 気温 4℃ 水温 7℃ pH7.7 TDS 33 EC 72 でほぼ近似していることを確認した。

◆今回の調査で白洲正子氏が大嶋神社の宮司から聞いたという往時の奥津島の姿に想い馳せながら 周辺を散策した後 湖岸沿いを 長命寺の裾野から、沖島遠望 大中干拓地と車を走らせて一周。琵琶湖で一番大きかったと言われた奥津島を実感した。

*参考資料 近江八幡市島学区含む奥島山地域について

杉田 薫 編集

【活動予定】

・11月7日(月) 東近江市能登川地区

執筆者 小篠



(25) 海浜植物守りたい

【活動報告日の活動会員数(のべ) 28名】

グループ担当職員:大槻 達郎

【活動報告】

■ 9月6日(火) 9時20分~11時10分 新海浜 天候: 気温: 参加者:4名

観察状況

台風11号の影響で南東の風が強く、湖面は沖に向かって波が立っており、プレジャーボートや漁船などの船舶はまったく見かけない状況でした。除草作業も風が強い為に、湖岸側の風下で実施したが、トンボも同じで避難していた

活動内容

- (1)チガヤ、メマツヨイグサ、コマツヨイグサ、オオフタバムグラ等の除草。・主たる場所は風下にあたる湖岸側で実施した。
- (2)保護区域周辺でのアメリカネナシカズラの除去作業実施。・前回実施より少なくなっている。
- (3)保護区域のロープに吊るしていた「立入禁止」のプラカードが経年劣化で傷んでおり本日撤去をした。併せて周辺のプラゴミ類の收拾。

活動所感

クロマツやセンダンその他の樹木により、日陰が出来ている場所にはハマエンドウが元気に育っているが、直射日光が常に当たっている場所にはチガヤなどが生えており、ハマエンドウは全く見られない。但し、そのような場所でもエノコログサやハマゴウ、チガヤなどが密生している所ではこれらの植物が「日陰」を作っており、ハマエンドウの生育を見る事が出来る。

(注) 大きな樹木類がなく、直射日光があたる場所では「雑草」や「ハマゴウ」を管理しながら生育することが大事と考えられます。
トピック 保護区域内で「穴」が出来てるのを発見しました。誰が何のために穴を掘ったかは不明ですが、琵琶湖博物館に連絡して確認するのもありと思います。推測ですが、付近に住んでいるタヌキの可能性ががあります。



保護区域の全景



日陰効果を作り出す草むら(1)



日陰効果を作り出す草むら(2)



除草中のスナップ写真



アメリカネナシカズラ



穴が3つ出現

今後の課題

- (1) 枯れたクロマツの苗木に代わる植樹が必要である。保護区域内外に植えた松の苗木の一部が枯れており、至急植え替えが必要である。課題: 苗木の手配。
- (2) ツルニチニチソウの根絶 課題: 地下茎の駆除作業には時間&労力を要する。
- (3) 保護区域内のチガヤ、エノコログサ、ハマヒルガオ、ハマゴウ等とハマエンドウとの共存共生を検討して、今後の保護活動に活かしていく。課題: 保護区域内の一斉除草はハマエンドウの保護に繋がっているか否か。

■9月16日(金) 9時30分~11時00分 天候: 晴れ 気温: 27℃ 参加者: 7名

観察状況

空も浜も少し夏の気配を残し秋の景色となった。ヒガンバナが咲いている。暑さも残るが気持ちのよい作業日。

活動内容

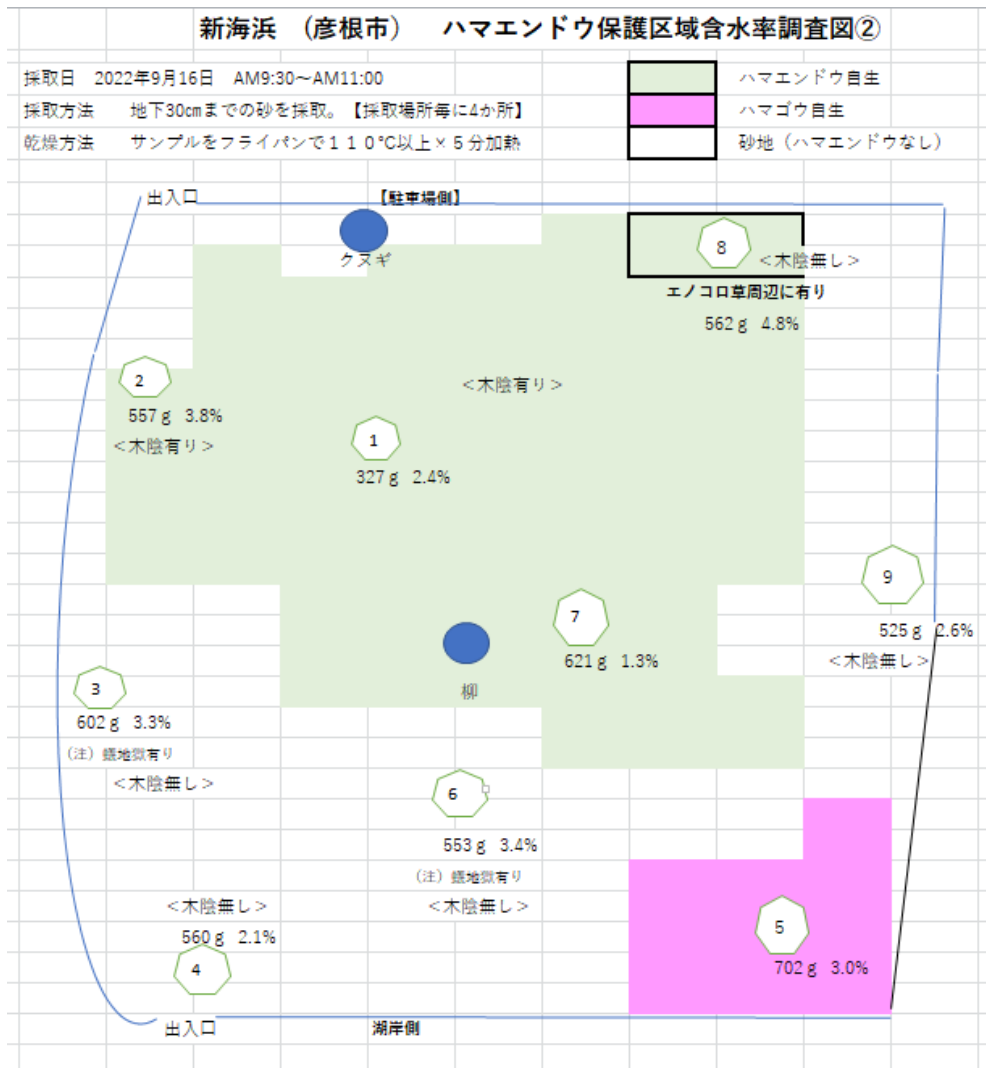
- (1) 土壌の含水率再試験調査(9地点 1インチパイプで深さ30cm×4本)
- (2) 枯れた松の伐採(直径約10cm×3本, 直径約15cm×4本)
- (3) アメリカネナシカズラ駆除(枯れていて少なくなった。)
- (4) 浜の除草(オオフトバムグラ、チガヤ等)

海浜植物

ハマエンドウ : 全体的に枯れて葉が少なくなり地面が見えてきた。駐車場側は葉も緑でツルも伸ばしている。

ハマゴウ : 全体的に枯れて実も黄土色に変わってきた。地面が見えてきた。

ハマヒルガオ : 浜には見当たらない。



■10月4日(火) 9時20分～11時00分 新海浜（彦根市） 天候: 気温: 参加者:7名

観察状況

本日は、全員揃っての活動日になり、活動内容は10月22日(土)びわ博フェス2022での発表に備えての現地調査と午後は琵琶湖博物館で大槻主任学芸員を交えた発表内容の意見交換を行いました。当日のプレゼンターは百木さんから清田さんに交代することになりました。

【新海浜】

琵琶湖の湖岸は波静かで、澄んだ空気は秋の気配を感じ、曼珠沙華が満開でした。宇野さん情報で最近の松枯れの原因は「水不足」との事です。琵琶湖の水位は今年になってマイナスが続いており、水位 -29 cm。浜は乾燥した状態になっている。

活動内容

- (1)ハマエンドウの自生状況(株数の違い)の場所を区分けする。
- (2)1㎡あたりのハマエンドウの自生株数のカウント作業。
- (3)水分採取場所の位置確認。
- (4)保護区域外でのチガヤ駆除など

■10月4日(火) 13時40分～15時40分 於:琵琶湖博物館

活動内容

10月22日(土)開催のシンポジウムで発表する為に内容の事前打合せを実施した。

パワーポイントにて発表予定で、プレゼンターの清田さんから事前のプレゼンを大槻さんはじめメンバー全員が受ける。

【プレゼンを受けて】

内容について、大槻さんから保護活動の目的を明瞭にする事が大事の指摘有り。新海浜での保護活動の目的は「ハマエンドウ」の自生地を他に増やすのか、それとも新海浜のハマエンドウが絶滅する事を防ぐのが目的かはっきりさせる。目的をはっきりさせる事で、取組む活動の内容も見えてくる。

【発表までの取組】

パワーポイントの記載内容の修正を早急に変更する。より理解がしやすくする為に視覚に訴える為に「写真」を活用する。

■10月21日(金) 9時30分～11時30分 天候:晴れ 気温:14℃ 参加者:6名 琵琶湖の水位:-30cm

観察状況

空にはうろこ雲が広がり、対岸の山がすっきり見える。比叡山の山裾はうっすら霧がかかっている。波は穏やか。水も澄んでいる。秋らしい、爽やかな気持ちの良い作業日

活動内容

- ・保護区内の駐車場側の陽の当たる場所に松の葉を敷きつめた。
- ・夏の間、メシバ等で作っていた草むらの草取り。
- ・ハマゴウ保護区南側の枯れたクロマツ伐採 2本
- ・ベンチをハマエンドウ保護区内から外へ出した。

海浜植物

ハマエンドウ :先月と違い、生き生きとしている。新葉が大きくなって勢いがある。

保護区外の松林の中のハマエンドウはチガヤと同じくらいの高さで葉も大きい。

ハマゴウ :全体的に枯れて枝も枯れかけている。実も黒くなってきた。

地面に葉が落ちて積もっている。

ハマヒルガオ:先月広がっていた葉は、大分枯れてきた。

※アメリカネナシカズラは見当たらず。

■11月10日(木) 9時30分～11時30分 天候:晴れ 気温:14℃ 参加者:4名

観察状況

小春日和が続いている。空は秋雲が広がっているが、暖かい。対岸の山頂はすっきり見えるが、伊吹山はモヤがかかり見えない。水位は低い水は澄み、波は穏やか。気温の割には暖かく、秋らしい気持ちの良い作業日

活動内容

- ・保護区内外の除草 メマツヨイグサ、メドハギ、アメリカセンダングサ等
- ・保護区域内(特に中央あたり)に4カ所程度穴が掘られている。穴の深さは15cm、幅は20cmぐらい。何者かの足跡も見られた。
- ・松枯れが深刻になってきた。次回、下葉を取り除き伐採の予定。(県で対応してもらえないものだろうか)

海浜植物

ハマエンドウ :枯れているところもあるが、まだ葉の緑も濃く広がっているところも多い。駐車場側は保護区のロープを超えて広がっている。

ハマゴウ :全体的に枯れて実も黒くなってきた。地面が見える面積が広がってきた。

ハマヒルガオ:葉が大分枯れてきたが、まだしっかり息づいている。



ロープの外まで
伸びたハマエンドウ



何者かに掘られた穴と足跡



3. はしかけさんが活躍する琵琶湖博物館イベント情報(12月～2月)

はしかけさんが活躍する琵琶湖博物館イベント(12月～2月)は下記のとおりです。なお、申込方法の記載がないものについては、しがネット受付サービスよりお申し込みください。(「しがネット受付サービス」を利用できない方は、往復はがきに必要事項をお送りください。)

■「【わくわく探検隊】秋の色探しをしよう！」

【内容】「秋の色さがし」というテーマで、博物館のまわりで秋の葉っぱをさがします。紅葉した葉を実習室で紙に貼っていき、まるで絵画のような作品を作ります。最後の作品紹介は、とても楽しい時間です。

【日時】2022年12月10日(土)13時30分～15時00分

【申込方法】当日受付(受付時間 13時00分～)(定員 先着 15名)

■「【田んぼ体験】生活実験工房 田んぼ体験 しめ縄づくり」

【内容】生活実験工房の施設や水田を利用して、昔ながらの農家の暮らしや生活、農作業に触れて頂くことを目的とし、その一環として、しめ縄づくり作業を体験して頂きます。

【日時】2022年12月18日(日)10時30分～12時30分(受付時間 10時00分～ 生活実験工房で行います。)

【申込締切】2022年12月6日(火)

■「ちっちゃな子どもの自然遊び・12月」

【内容】森や田んぼでの自然遊びや、昔の暮らしの体験をしたりしながらゆつくりと過ごす遊び場です。稲わらで遊んでみましょう。

【日時】2022年12月21日(水)10時00分～14時00分

【申込締切】2022年12月9日(金)(定員に達し次第受付終了)

■「【わくわく探検隊】綿にふれてみよう！」

【内容】昔の道具を使い、綿花から糸をつむぐ体験をします。当時の人々の知恵や努力を感じながら、綿がもつ自然の柔らかさに触れます。(雨天決行)

【日時】2023年1月14日(土)13時30分～15時00分

【申込方法】当日受付(受付時間 13時00分～)(定員 先着 15名) 受付は実習室2で行います。

■「ちっちゃな子どもの自然遊び・1月」

【内容】森や田んぼでの自然遊びや、昔の暮らしの体験をしたりしながらゆつくりと過ごす遊び場です。冬眠中の虫を探してみましょう。

【日時】2023年1月18日(水)10時00分～14時00分

【申込締切】2023年1月6日(金) (定員に達し次第受付終了)(定員 先着 10組)

■「里山体験教室(第4回)」

【内容】博物館を飛び出し、実際の里山で季節ごとの自然観察や里山遊び体験をしよう! ※少雨決行

【日時】2023年1月22日(日)10時00分～15時00分

申込終了

■「【田んぼ体験】生活実験工房 田んぼ体験 わら細工」

【内容】生活実験工房の施設や水田を利用して、昔ながらの農家の暮らしや生活、農作業に触れて頂くことを目的とし、その一環として、わら細工作業を体験して頂きます。

【日時】2023年2月5日(日)10時30分～12時30分(受付時間 10時00分～ 生活実験工房で行います。)

(定員 20名程度 付き添いの方も含む)(多数の場合は抽選)

【申込締切】2023年1月24日(火)

■「【わくわく探検隊】水鳥を観察しよう！」

【内容】双眼鏡やフィールドスコープを使って、琵琶湖に飛来する水鳥を観察します。普段何気なく見ている鳥たちの様々な違いに気づくことができるプログラムです。(雨天決行)

【日時】2023年2月11日(土)13時30分～15時00分

【申込方法】当日受付(受付時間 13時00分～)(定員 先着 15名) 受付は実習室2で行います。

■「ちっちゃな子どもの自然遊び・2月」

【内容】森や田んぼでの自然遊びや、昔の暮らしの体験をしたりしながらゆっくりと過ごす遊び場です。冬眠中の虫を探してみましょ。

【日時】2023年2月15日(水)10時00分～14時00分

【申込期間】2022年12月15日(木)～2023年2月3日(金) (定員に達し次第受付終了)(定員 先着10組)

4. 生活実験工房からのお知らせ

11月20日には生活実験工房でイベント「土の中の小さな生き物を探そう」を実施しました。

土の中にもたくさんの小さな生き物がいて、そのような生き物たちも自然界の中では大切な役割を担っていることを知ってもらったイベントでした。顕微鏡でのぞくと、皆さま小さな生き物の世界に引き込まれ、大人の方もお子さんも夢中で観察を続けていらっしやいました。遠方からの参加者もいらっしやいましたが、皆様、面白かったと大変喜んでもらえました。



土の中の小さな生き物を探そう 11/20

さて、今後の農作業イベントの予定は下記のとおりです。
(参加は予約制になりますので、ご注意ください。)

【活動予定】

開催時間：10:30～12:30(受付10:00～)

12月18日(日) しめ縄づくり

2月5日(日) わら細工

担当:交流係

5. その他の事項

(1)はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に各はしかけグループの担当者に確認をお願いします。メールの場合はグループ代表アドレスまでご連絡ください。なお、グループ代表アドレスは事務局(hashi-adm@biwahaku.jp)までお問合せください。

(2)名札(会員証)の写真について

名札(会員証)の写真を更新されたい方は、はしかけ制度担当者 hashi-adm@biwahaku.jp まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限りです。

(3)はしかけ会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、会員証を必ず持参してください。会員証を携帯せずに活動することは、原則的にできません。

(4)はしかけ活動中に事故が起こったら

はしかけ会員は、ボランティア保険に加入する必要があります。加入時に、ボランティア保険加入カードが各自に配布されますので、活動中に事故などが発生した場合には、加入者カードに書いてある連絡先(社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923)へ、速やかに連絡してください(各人で連絡)。

なお、手続きには、グループ担当者(学芸員)の活動証明が必要ですから連絡してください。

詳しくは、最新年度の「ボランティア保険」パンフレットをご覧ください。「ボランティア保険」のパンフレットは、はしかけ事務局(博物館事務学芸室)にも置いています。